

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（営業担当）	・店頭への来店客数は台風以降明るい兆しをみせている。 ・11月中旬くらいからの忘年会の予約の問い合わせが増えている。
		一般レストラン（スタッフ）	
	やや良くなる	スーパー（店長）	・肌寒くなったため秋物衣料が非常に良く売れている。今までは良くなかった衣料品、服飾雑貨もかなり売れるようになったので、今後はやや良くなる。
		スーパー（企画担当）	・製鉄関連製造業の従事者が多い商圈を抱えており、年末賞与のアップ等による購買動向の好調さが期待できる。一方ですべての消費者の景気回復は十分でないため、トータルとしての景気はやや好転する。
		コンビニ（エリア担当）	・昨今の異常気象による食品素材の単価の高騰が、逆にコンビニエンスストアの商品価格を低く見せ、良い方向に転じる。
		衣料品専門店（店員）	・今年の冬は暖冬予想なので防寒衣料は厳しいかもしれないが、ここ最近の衣料品売上の低迷を考えると、そろそろ購買意欲が上がってくる。
		家電量販店（経営者）	・デジタル家電等で客の関心は確かにあるので、展示会や特売等で積極的に商品を勧めれば、必ず反応がある。
		家電量販店（店員）	・多少高くても性能のいいものを購入するという客が増えてきた。若干ではあるが良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・客の来場が少しずつ増えているので、その客が2度3度来店すれば契約件数も伸びてくる。
		高級レストラン（スタッフ）	・客の様子は若干良くなってきているようなので、年末にかけて改善される。
美容室（店長）	・成人式の着付けの予約が前年よりも多く、店も活気が出てきた。		
変わらない		商店街（代表者）	・観光シーズン到来に伴う需要があるだろうが、ベースになる需要はほとんど増えない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・青果物の価格に関しては、元の状態に戻るまで3か月から半年かかると言われている。景気全体としてもプラス材料はない。
		百貨店（営業担当）	・11月以降も売上の増加要因に乏しく、しばらくは売上の低迷が続く。
		百貨店（売場担当）	・原油高が消費に跳ね返ってくることに加え、台風の部分に対しての心理的な影響、社会不安がかなりある。特にミセスを中心とした買い控えが起こっている。
		百貨店（営業企画担当）	・消費の対象が、「低価格の衝動買い」「必要性のあるもの」「自分のライフスタイルに合った価値観のある品」等に明確に変化している。店舗の選択や絶対数量の減少につながり、売上の増加を大きく見込めない。
		百貨店（売場担当）	・台風、地震等の影響で、なかなか客の気持ちが購買に向かなかった。気候がなかなか良ならず、秋物、冬物商品が売れなかった。今後も景気は変わらない。
		スーパー（店長）	・明るく消費に向かうという雰囲気ではないが、これ以上悪くはならないという空気は店全体や客の雰囲気に感じられる。なんらかの劇的な景気回復の動きが欲しいが、以前より暗さは幾分薄まった。
		スーパー（店長）	・依然として野菜等の価格は上がっているが、衣料品、住関連は単価が相変わらず下がっている。この状況は今後もあまり変わらない。
		スーパー（店長）	・少しずつ良くなりかけたと感じていたが、台風や地震の影響で消費が冷え込む。
		スーパー（総務担当）	・現在の消費マインドが今後上向きになるとは今のところ思えない。ガソリン価格の高騰、社会保険料負担増等、消費が上向く部分と反対の状況にあるため、今とほぼ変わらない。
		スーパー（経理担当）	・野菜の高値は台風の影響で長引くかもしれないが、食品を中心に着実に販売量は増えている。昨年は競合店が地元球団優勝セールを行い、売上が落ち込んだが、今年はそれがなかったため盛り返している。しかしその動きは今月いっぱい終わる。
		コンビニ（エリア担当）	・冬場を迎えるに当たり、強力な販促やお歳暮、クリスマスケーキ等の予約商品で売上の底上げを図りたいが、現状の売上の下降傾向に歯止めをかけるまでは難しい。

	コンビニ（販売促進担当）	・量販店で客の動向を見ているが、チラシ片手に3店の量販店をはしごして安いものだけを買って回るという傾向がある。タイムサービスに合わせてまた買物に来るらしく、朝見かけた客をまた見るというように、安いものをより安く求めている。この傾向が今後も続く。
	衣料品専門店（店長）	・台風、地震とあまりいい話を聞かない。財布のひもが緩むにはもうちょっと楽しい話題が世間をにぎわすといいのだが。
	衣料品専門店（店員）	・景気が良くなる要因が何もない。一部良くなったという話があるが、毎日客と対面している小売業の立場からは、その傾向は全く見られない。ただ、買い控えというよりは、安いものに関する反応が強くなる一方、高額商品の買上点数が減っている。
	乗用車販売店（経営者）	・大企業は輸出等でいいかもしれないが、零細企業が対象とする消費者はリストラ等で仕事がないため、全く売れていない。この1年、中古車業界は悲鳴を上げている。
	その他小売〔雑貨卸〕（総務担当）	・年末に向かい購買力も大きくなると思うが、環境がどうしても良くないので、なかなか財布のひもが緩まない。IT関連を含めた電化製品等が年末には出ると思うので、期待したい。
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門はやや回復の兆しが見られるものの、主力の宴会部門が依然回復基調になく、良くなるとはいえない。
	旅行代理店（従業員）	・年末、年始の旅行予約の出足が遅い。近場の韓国、アジアリゾートは良いが、ヨーロッパ、アメリカが悪い。
	タクシー運転手	・「物が高くなった」、「忘年会をやめよう」という声が多くから聞こえるようになった。繁華街でも、「このままでは商売をやっていけないので、店をたたみたい」という声も聞かれた。
	住宅販売会社（従業員）	・展示場への来客数に大きな動きはない。住宅新築の希望はあるが、時期は未定という感じで、契約までは時間がかかる案件が多い。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン減税が12月で終わることがマイナス要因である。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・台風の影響で野菜が値上がりし、家計に響いている。また、地震等で不安感が広がっている。これらの影響から、財布のひもが固くなる。
	商店街（代表者）	・再開発事業で作った商業施設を市が取得するという事になったが、その後の計画が進んでいない。それに加え、天候不順等で中心街の空洞化が進み、空き店舗がますます増えている。
	百貨店（販売促進担当）	・税金、年金問題ばかりがクローズアップされ、社会全体に活気がない。福岡のマーケットも新規参入等が一段落し、街全体に活気が感じられない。特に夜の人通りが極端に減っている。このままでは景気全体が悪くなる。
	スーパー（経営者）	・年々、クリスマス、お正月等のハレの日の売上が下がっている。外食産業等の安売りで、単価が上がらなくなっている。
	スーパー（店長）	・食料品全体の売上は前年比105～106%になると思われるが、青果物は価格高騰で粗利益が同5～6%下落している。衣料品は秋物に続き冬物衣料も不振になると懸念している。総合すると、食料品が衣料品等の不調をカバーしきれず、良くて前年並みではないか。
	コンビニ（店長）	・景気は上向きと言われているが、地方は全く関係ない。今から景気もいい方向に行くかと期待していたが、台風、地震等で真っ暗やみである。
	衣料品専門店（総務担当）	・秋物の新作商品を展示しているが、高額品やプロパー商品等に対する客の反応が例年より悪くなっている。
	家電量販店（店員）	・当店が立地している地域には大型家電量販店が4社あり、生き残りをかけてさらに厳しい戦いが予想される。ちまたで言われているほど景気は改善されておらず、更に厳しいものになる。
	都市型ホテル（総支配人）	・国民文化祭が開催されるが、宿泊に寄与していない。
	都市型ホテル（副支配人）	・台風や地震の災害の影響が2～3か月後に出てくることが懸念される。
	旅行代理店（業務担当）	・国内旅行を中心に、年末年始の申込が前年を下回っている。また、日並びが悪いことから海外の申込も悪く、前年を大きく上回ることはあまり期待できない。

	悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・メーカー、問屋、小売全部が悪い。さらに地震の影響でもっと悪くなる。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・忘年会等の特需も見込まれ、何か異変でもない限り消費は期待できる。また、年明けも輸入状況が厳しいため、国産需要は継続する。ただし、冬場に向けての鳥インフルエンザの発生が心配である。
		家具製造業（従業員）	・高級マンションの物件の多さに連動し、家具も高品質、高価格帯の商品が動いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・新規の客先からの問い合わせや見積依頼等が多くなってきた。
		金融業（営業担当）	・中小企業の経営者より、年末に向けて景気上向きが期待できるコメントをよく耳にする。
変わらない		鉄鋼業（経営者）	・公共事業や建築物の遅延、取消や、中小物件の大幅減など、秋に期待される需要が動かない。遅延により年初にかけて一挙に動き出す可能性も考えられるが、現状ではその気配もなく、低い水準のまま推移する。
		輸送業（従業員）	・景気が良くなる要因が今のところ見つからない。メーカーもいろいろ試行錯誤をして売れるように頑張っているが、問屋、2次店と消費者に直結しているところは商品を購入しないため、売行きが良くない。この傾向が今後も続く。
		輸送業（総務担当）	・今のところ良くなる気配がない。みな平均した荷動きをしている。しばらくはこのままである。
		不動産業（従業員）	・宅地販売部門において、販売戸数・販売価格ともに低下傾向にある。
やや悪くなる		食料品製造業（経営者）	・九州新幹線の開業効果もやや薄れてきている。また、駅ビル開業による効果も期待できそうにない。また、今後新潟県中越地震等の災害が景気に及ぼす影響はかなり大きくなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体製造装置関連を含め、半導体関連の業種全体で在庫調整に入っており、先行きは非常に不透明である。不安定な状態が続く。
		建設業（総務担当）	・市町村合併等により市議会の動きがスムーズにいかず、工事の発注量が少なくなった。また、景気回復の手ごたえが感じられない。
		輸送業（従業員）	・軽油代の値上がりりが止まらない中、荷主への運賃値上げ要請も難しく、また環境問題に対応するための車両設備投資等もあり、経営環境は非常に厳しい。
		通信業（経理担当）	・台風、原油高、地震等の影響で、景気が落ち込むのではないかと。
		広告代理店（従業員）	・広告活動やイベントが活発になる時期であり、公共団体、共同組合は例年通りであるが、民間企業、商店は盛り上がりには欠けている。
		その他サービス業〔物産リース〕（役員）	・原油高の長期化で影響が出る。また台風災害、新潟県中越地震等の外的環境悪化からくる物価の高騰、あるいは設備投資の意欲低下等がかなり進行しつつある。当面好材料は見当たらない。
悪くなる		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外生産移行が非常に多くなり、国内での仕事が激減した。
		経営コンサルタント	・ビールが1本あたり10円ほど値上げの様相である。11月の始めくらいから値上げ交渉が始まっており、消費者離れが起こりそうである。また、原油価格の高騰によりペットボトルが値上げ段階に入っており、それがひいては飲料マーケット、酒マーケットの容器の値上げにつながり、消費が下がることは間違いない。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・年末までは各業界で商戦に入るため、雇用は増大すると見込まれるが、年越し後まで継続して雇用があるかは疑問である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・これから年末年始を迎え、求人の需要は高まる傾向にある。福岡では特にコールセンターでの雇用が盛んなため、フリーター不足である。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・採用については、社員構成の年次ギャップの解消の意味もあり、積極的な姿勢であることは変わらない。厳選採用ではあるが、採用予定数は増加している。
	民間職業紹介機関（支店長）	・10月度の売上高が前年比10%以上増加した。年末から年度末の需要増に期待が持てる。	

変わらない	求人情報誌製作会社 (経営者)	・原油価格の高騰もそろそろ落ち着きを見せ、不安感も治まってきたところに、大型台風の来襲や地震の発生があり、今後の景気の動きは不透明である。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・ここに来て少し動きが鈍くなっているため、変わらないか、やや悪くなる。
	職業安定所 (職員)	・新規求人数が増加しているものの、パートや請負の求人が高まっており、安定した雇用につながっていない。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-